

ネパール・ヒマラヤトレッキングひとり旅

小林康宏(HUAC No.126)

新居浜太鼓祭りが終わって、ネパール・ヒマラヤトレッキングに行ってきました。

目的はエベレストとアンナプルナ山系のトレッキング、異文化に触れ見聞を広めることにありました。気儘な一人旅でスケジュールはありません。

カトマンドウに着いた第一印象は混沌、喧騒、エキサイティングな国でした。これは最後の帰国まで変わることはありませんでした。昨年、広島県岳連70周年記念ヒマラヤ・アンプ I 峰遠征隊報告の内、HUACのOB舟橋明男氏(No.67)、石橋満男氏(No.68)のレポートを参考にさせていただきました。現地カトマンドウでは Himalayan Hub International 社長 Mr.Prakash Podel からアドバイスをいただき、最後まで全くトラブルはありませんでした。トレッキングは no guide no porterです。

1)エベレストトレッキング(10月26日～11月6日)

カトマンドウから東に飛行機で40分、世界で一番危険な飛行場といわれるルクラから始まります。10日間の山歩きです。有名なナムチェ～タンポチェ～デインボチェ(4410m)～ロプチェ(4930m)～カラパタール(5550m)まで。心配していた高山病は高度順応がうまくいって、高度障害はありませんでした。



写真1 プモリ



写真2 エベレスト(イエローバンドが見えます)



写真3 ゴラクシェプ付近

2) アンナプルナトレッキング(11月13日～25日)

カトマンドウから西にある世界的なリゾート地、ポカラから車(バスまたはTaxi)で約1時間。フェデイ～ポタナ～ジヌダンタ～バンブー～デオラリ～マチャプチャレベースキャンプ～アンナプルナベースキャンプ～チョムロン～タダパニ～ゴレパニ～プーンヒル～ナヤプール～ポカラ。2週間のトレッキングです。アンナプルナB.C.は4140m。

ポカラはカトマンドウとは違い美しく静かで、世界中からツアーリストやトレッカーが集まっています。特にヨーロッパ人が多いように感じました。雰囲気は旧軽井沢に似ています。

トレッキングコースはアップダウンが多く、エベレスト街道よりきついですが気持ちのよいルート。アンナプルナB.C.は迫力があり絶景です。道中牛や馬も少ないので歩きやすく、おすすめです。アンナプルナ山系(南峯、I～III峯、マチャプチャレ、etc)が一望できます。プーンヒルからのダウラギリも記憶に残る山です。



写真4 アンナプルナ I 峰



写真5 アンナプルナベースキャンプ



写真6 マチャプチャレ

3)チトワン国立公園

ポカラからカトマンドウへの帰途は、予定を変更してチトワン経由にしました。ネパールは奄美大島とほぼ同じ緯度に位置し、亜熱帯気候帯に属しています。そのため、南部のインド国境近くのチトワン国立公園には象、インド犀、虎、豹、ワニ、孔雀などがジャングルの中に住んでいて、保護されています。虎や豹は見かけることはできませんでした。



写真7 象に乗るツアー



写真8 インド犀の親子



写真9 象の行進

4)ポカラやカトマンドウ周辺

ポカラでは、レイクサイドのホテルに滞在しました。フェワ湖周辺の散策やサランコットの丘、国際山岳博物館、オールドバザールに出かけてみました。国際山岳博物館は、敷地も広く建物は立派で見ごたえがありました。1947年日本隊によって初登頂されたマナスルや河口慧海の著作全集等も展示されていました。オールドバザールも1500年位タイムスリップしたような不思議な街で、ロバの隊商が鈴の音を響かせて出て来るような錯覚に襲われます。金銀細工や宝飾品の店が並んでいて歴史を感じました。



写真10 バンブーからマチャプチャレ

カトマンドウもあちこちまわりました。なかでもパシュパティナート(ネパール最大のヒンズー教の寺院)では火葬を見ました。昔の日本でもあった茶毘です。遺灰や遺骨は、ほとりのガンジス河支流の聖なる河に流します。



写真11 古都パタン、ダルパール広場



写真12 パシュパティナート

5)ネパールの印象

ネパールで感じたことは色々あります。一言でいえば素晴らしい国です。北海道の1.8倍、人口は2800万人。うち500万人がカトマンドウに住んでいます。人々は謙虚で明るく、信心深く、ジェントルで、日本人には好意を持って接してくれている様に感じます。

工業製品は100%輸入に頼っています。電力不足で、停電は日常茶飯事で当たり前のこと。ガソリン等、石油、プロパンガス類は全量インドからの輸入です。自動車は殆どがスズキとインドのタタ自動車が市場を制圧しています。オートバイは普及しています。一方ハンドクラフトはいいものが数多くあり、工業製品とは対照的に得意分野です。職人芸でモノづくりが得意のようです。



写真13 なべ職人

食事はカトマンドウ、ポカラには美味しいイタリア料理店が多いです。石窯で焼いたPizzaやパスタ、エスプレッソやカプチーノは本格的なものです。韓国料理、中国料理、日本料理店もあり、味はまあまあでした。ネパールの伝統的な料理は、私にはあまり口に合いませんでした。

国内に30余りの民族がいるのが、混沌としたお国柄の理由の一つかもしれません。ハットするような美人もしばしば出会いました。国民の80%がヒンドウ教徒で、カーストが残っています。仏教はチベットのラマ教がほとんど。

2ヶ月近くの旅行を終えて、またしばしば訪れてみたい国、という印象を強くもちました。



写真14 壺などを売る店



写真15 ヒンドウ教の僧侶

6) ワンポイントアドバイス — ネパール・ヒマラヤトレッキングに興味ある方々に —

私の経験では no guide no porter をお勧めします。エベレスト、アンナプルナ街道共に1～3時間おきに集落があり、必ずロッジがありますので宿泊が可能です。余裕をもって小刻みに行動すれば、いつかは楽に目的地に行くことができます。ロッジは数軒ありますができれば大きくて、花壇、ベランダや庭園があり欧米人が多く宿泊している宿がお奨め。気に入ったロッジがあれば連泊しましょう。

疲れを取りながら行けば全く問題はありません。ロッジの料金はどこも同じで100～200Rs(100～200円)程度で食費込でも1000～1300Rs(1000～1300円)程度。

個人装備は10kg以下に抑える(飲料水2L、ダウンの寝袋を含む)と楽に歩くことが可能です。私は12kgでしたが、10kgに抑えることは充分可能でした。ロッジではブランケットを用意していますが、寝袋は必携です。靴は登山靴は必要ありません。軽登山靴で充分です。半袖シャツや半ズボンがあった方がよい。

私はザック(70L+10L)、軽登山靴、ストック、フリースの手袋、アルミ製の2L水筒、インナーシュラフ等カトマンドウで購入しました。しめて9500円也。トレッキング用品の店は無数にあります。しかもほとんどが North Face を扱っています。全てコピー商品なので格安で入手可能。

アンナプルナ街道には温泉が3ヶ所あり連泊してのんびりとしました。

一人旅のメリットは友人が沢山できることです。メールアドレスを交換した友人は20人を超え、国は10カ国にのびります。



写真16 温泉施設



写真17 友人と



写真18 ダウラギリ I 峰